

環境、体に考慮した涼しさ

なごミスト設計 家庭用ドライミスト

万博登場 中部発の技術を小型化

なごミスト設計（名古屋千種区鹿子町3の8の402、西田幸夫代表、電話052・781・6006）は、環境に配慮した冷房技術として、半屋外の大型施設などで普及しつつあるドライミストを小型化し、個人の家庭で利用できるようにした。エアコンの冷気が苦手な高齢者や冷え性の人にニーズがあると判断。将来的に年間100台の販売を目指す。

（真野敏幸）

エアコンより経済的

ドライミストは、霧が出资方式で設立した。開発し、販売している。内を冷却する。エアコンを散布する装置。水が家庭用の小型ドライミスト装置をベランダや庭に蒸発する時の気化熱を利用して温度を下げる。スプリングラーの技術を元に、中部地区の企業や名古屋大学の教授らが開発したものだ。愛知万博で使用され、一躍知名度が上がった。今では50社以上のメーカーが参入し、半屋外の大型施設向けの装置を販売しているという。

なごミストを導入した保育園（千葉県）

同社は2005年、研究に関わった教授ら



なごミストを導入した保育園（千葉県）

力は約10分の1という。同社の杉山剛氏は「エアコンは廃熱を出すのが、なごミストなら隣の家に涼しさ（霧）のおすそわけができる」とアピールする。

価格は25万〜35万円。07年から販売、改良を続け、これまでに100台ほど販売。導入コストの高さが課題だ。普及していけば、製造コストも下がるという。

杉山氏は「ドライミストは知っていても、それが家庭用になっていくと知る人は少ない。年配の人や冷え性の人など、エアコンの冷気が苦手な方に知ってほしい」と話す。

小型であることから、家庭だけでなく、屋外で実施するイベントや個人店舗などにも利用されている。今後、来年の夏に向け、保育園や老人ホームを中心に提案していく。

